

〈Q&A〉

【Q】 裁判を進めるときの基本姿勢は？

【A】 たとえ対立していたとしても、あくまで代理人として第三者を交えた「対話の場」に参加し、裁判官と相手に伝えて事件を解決するという意識が大切です。口喧嘩が強いほうが勝つのではない、というイメージですね。KIDSの民事裁判所！では、事件ファイルのあらましにそって原告側・被告側に分かれて陳述や質疑応答をしてゆき、最後に裁判官の判決言い渡し、までを通して体験できるようになっています。

【Q】 陳述のアイデアの出し方を教えてほしい。

【A】 まずは事件ファイルをよく読み、事実関係や互いの言い分、その理由を把握します。その上で、訴状・答弁書にある内容について、①法律に則っているか。②社会通念上そうだと思うか。というふたつのポイントを念頭においてアイデアを出してみましょう。ダウンロード資料の陳述は、子どもたちが代理人として、裁判官へ自分たちの考えを訴えるものです。相手を攻撃したり、故意に傷つけるのが目的ではありませんので注意して下さい。また、自分のチームの主張だけでなく、「相手方だったらどんな主張をしてきそうか」を想像してみましょう。具体的なアイデアの出し方、陳述のしかたについて、フェーズごとにポイントをまとめたアニメ教材を観て下さい。

【Q】 準備書面、どのチームに何を配ったらいいですか？

【A】 各チームに配布するのは、共通の資料（2種類）と、チームごとのワークシート（1種類）の合計3種類です。

- 資料①：事件ファイル（共通）
- 資料②：法典（共通）
- 原告専用ワークシート：準備書面（原告）
- 被告専用ワークシート：準備書面（被告）
- 裁判官専用ワークシート：ジャッジシート

【Q】 陳述が論理的なものではなく、感情をあらわにした主張や反論、個人攻撃だったらどうしたらいい？

【A】 前述のとおり、裁判での議論は、「法律に則っているかどうか」がポイントです。もしそこから大きく外れるようであれば、裁判官もしくは指導者が（裁判所書記官としてなど、できれば世界観の中の登場人物になりきって）注意をするようにしてください。陳述中に現実世界の指導者として割って入るのは、意見の表出および裁判の流れを一時中断することになるため、その場合は「感想ふり返り」の際に指導するのが適切と考えられます。

【Q】 陳述、ジャッジなどの話し合いが、毎回制限時間切れになっているのに終わらない。どうしたらいいですか？

【A】 陳述は基本原告・被告チームが交互に行うため、次のスピーチに向けて準備をしておくなどして、制限時間を守るようにしてください。どうしても話が盛り上がりすぎてしまうなど、時間切れになりそうなときは、指導者が画面のタイマーを見ながら「あと〇分だよ」と声をかけるようにしてください。時間を区切って議論する、は大人になる上で必要な、とても重要なスキルです。

【Q】 陳述、振り返りなどの話し合いがうまくいっていないような気がする、そんな場合の対処や声かけは？

【A】 まずは、ルールが分からなかったところがないか、チーム内で勘違いをしていないかを確認しましょう。あれば、大人に聞くように言いましょう。

● 事件のあらましが理解できていない場合

→ 事件ファイルと一緒に読んでみる。大人が原告・被告役を演じて見せる。

● 陳述で何を話していいかわからない場合

→ 各ターンで話すことが書かれている準備書面（ワークシート）を見直す。

●振り返り感想タイムで何を話していいかわからない場合

→様子を見て、あまりに停滞しているようなら、次のような声かけをするのもいいかもしれません。

問いかけ例：

「自分に一番近いと思った意見はどれですか。」

「一番納得した意見はどれですか。」「自分の意見と違った意見はありましたか？」

「自分が相手チームだったらなんて言ったと思いますか？」

「あなたが新聞記者になって記事にのせるとしたらどんなタイトルにしますか？」

…など、裁判をふりかえる声かけをしてみましょう。